

主な使用場面・領域・教科等： 自立活動

<図・写真>



<材料・製作方法等>

木材（角材・板）
L字金具 ビス

①厚手の板を電動糸のこぎりで足型にカットし、やすりで形を整える。②柱となる角材を板にビス留めする。③足型と角材をビス留めし、さらに角材を柱へビス留めする。L字金具を両面に取り付け補強する。④靴下の滑りをよくするためにニス塗りと研磨をする。

<ねらい>

○自分で靴下を履けるようになる。

<指導方法・留意点等>

- ①輪ゴムに指をかけて拵げる練習をする。
- ②体操座りや片膝を起こしたあぐら座りの練習をする。
- ③靴下練習台に小さな輪を通す。（靴下の口を拵げたままつま先を入れるイメージ）
- ④つま先やかかと等で靴下が引っかかった際の靴下の持ち替え方と引き方を練習する。
- ⑤練習台で確認したことを実際に自分の足で実践する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

体操後に教師の支援を受けながら靴下を履いていたが、足の姿勢を保持しながら細かい手指の動きを練習することは困難なため、この教具を製作した。膝を立てる姿勢のサポートを必要としなくなったことにより、手指へのサポートや指示がしやすくなった。また、問題箇所について、練習台を回転させることで一緒に確認しやすくなった。なにより、足の姿勢がずっと同じ状態であるので、やり直しや反復練習が行えるようになった。

途中まで履かせた靴下を引っ張る際、以前はすぐに指が靴下から滑って放してしまいがちだったが、少しずつ人差し指と中指を鉤状にして強く引くことができるようになってきた。

つま先よりも遠くから靴下の口を手前へ寄せるようにして靴下を履き始めることがまだ難しい（靴下を練習台の「指の付け根」あたりへ垂直におろしてしまいがち）ため、大きく固い輪（直径10cm程度）を使って、つま先の向こうから入れることに集中して練習する必要もある。

